



MAZDA純正

緊急防災 車中泊セット

昨今多発している自然災害に備えて、万が一車中泊が必要となった場合でも、安全にそして少しでも快適にお過ごしいただけるように緊急防災車中泊セットをご用意いたしました。

過去、災害時に避難所ではなく車の中で過ごし、エコノミークラス症候群を発症された方が多くいたことに着目し、自動車メーカーとして貢献できることを考え、車中泊に特化した一般的な防災セットとは異なる内容となっています。

エコノミークラス症候群の予防に有効な着圧ソックス(福助株式会社製)など、様々な用途に活用いただけるマツダロゴ入りオリジナル専用防水ロールに収納したセットです。

お客様のニーズに合わせて、お選びいただけるセット内容の異なる10Lと5Lの2種類をご用意しています。



自動車での車中泊を前提とした商品ラインナップ

■「車中履くソックス」(福助株式会社製)

大規模災害における被災者の健康状態を研究することから生まれた着圧ソックスです。寝る際や長時間の移動時に着用することで、エコノミークラス症候群のリスクを大幅に下げることができます。

■ブースターケーブル *10Lのみ

自動車のバッテリー上がりが発生した時を想定し、ブースターケーブルがあれば安心です。

※商品の詳細は裏面をご参照ください。



セットの内容



① 防水ロールバッグ

いざという場合には簡易的なバケツや枕としても使用いただけるアイテムです。

② 「車中履くソックス」 M・Lサイズ 各1ケ

大規模災害における被災者の健康状態を研究して作られた着圧ソックスです。就寝時や長時間の移動時に着用することで、エコノミークラス症候群のリスクを大幅に下げることができます。

③ 「ブースターケーブル」 DC12V、80A *10Lのみ

バッテリーが上がってしまった場合、他の車と接続し、電力を分けてもらうことでエンジンを始動させるためのアイテムです。

④ 「防災エアーマットGOLON」 10L/2ケ・5L/1ケ

空気を入れて膨らませるマットです。使用いただくことで車室内の凹凸が軽減できます。

⑤ 「虫よけウィンドーネット フロントドア用」 10L/2ケ・5L/1ケ

ドアサッシュにかはせて使用いただくアイテムです。窓を全開にしても虫等の侵入を防ぐことができます。

⑥ タオル(個別包装) 2枚 *10Lのみ

何かと便利です。

⑦ 目かくしポンチョ

軽量コンパクトなビニール製ポンチョです。着替えの際やトイレ時のプライバシーを守ります。

⑧ 「トイレONE」 3枚入

凝固剤不要で、簡単便利な次世代簡易トイレです。

⑨ 非常用給水バッグ 5L用 *10Lのみ

5Lまでの水が入るビニール製の給水袋です。

⑩ 蓄光ホイッスル

蓄光タイプの緊急用ホイッスルです。バッグに装着されます。



MAZDA純正 緊急防災 車中泊セット

(10L) ● 希望小売価格/¥15,950(税込) ● 部品番号/C901 V9 980 ● メダルコード/FZ9A ● 保証期間/1年

(5L) ● 希望小売価格/¥9,790(税込) ● 部品番号/C902 V9 980 ● メダルコード/FZ9C ● 保証期間/1年

エコノミークラス症候群とは

狭い窮屈な姿勢で長時間座り続けると足のふくらはぎの静脈に血栓ができることがあります。血栓は同じ姿勢で座り続けることで静脈の中で次第に大きくなり、ちぎれて流れ心臓に到達し肺動脈を塞いでしまうことがあります。肺動脈が血栓で塞がれると胸痛を引き起こし、呼吸困難となり、最悪の場合は突然死することがあります。こうした一連の病気のことを静脈血栓塞栓症と言います。狭い窮屈な姿勢で座ることが飛行機のエコノミークラスを想像させるために、エコノミークラス症候群とも呼ばれています。新潟県中越地震や熊本地震では車中泊した車の中での発症事例も多くありました。

[新潟大学大学院医学総合研究科 先進血管病・塞栓症治療・予防講座特任教授 榎沢和彦 監修]

災害時における車中泊の心得

1 泊まる日数・人数を調整

やむを得ず車中泊になった場合、できるだけ1泊～数日程度にとどめること、そして車中泊する人数を調整することが重要です。狭い車内では座った姿勢のまま仮眠することしかできず、疲れがたまります。また、トイレのたびにドアの開閉が必要となり、眠りを妨げられ、ストレスも高まります。多人数での車中泊は避け、子どもや年配者は車内に、大人は日中のうちにテントを張ったり、身を落ち着ける場所を探すなど、体調を崩さないような環境を作りましょう。

2 寝床をできるだけフラットに

エコノミークラス症候群の対策や予防法において、最大のポイントは「どれだけ平行に寝られるか」です。車中泊では、最初はシートのリクライニングだけで十分と思っても、長時間過ごすすと徐々に苦痛になってきます。睡眠時は、寝床の凹凸をエアーマットでカバーするなど、寝床を平行に整えるよう工夫しましょう。

3 寒さ対策をする

冬の夜間、冷気を吸収する車内の寒さは想像以上です。金属でできている自動車は、もともと冷えやすく、四方の窓ガラスから強い冷気がどんどん車内に侵入してきます。実際冬季の外気温と車内温度は、ほとんど変わりはありません。気温が下がる明け方にかけては、車内が氷点下になることもあり、十分な防寒対策が必要となります。